

---

# 2012年7月期 第2四半期決算説明会

包装システムの市場創造型トータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社



---

証券コード: 6267

# 目次

I．事業環境

II．2012年7月期第2四半期決算概況

III．2012年7月期通期業績見通し

IV．中期経営計画ならびに

経営戦略の主な取組み状況

V．参考資料

# 事業環境

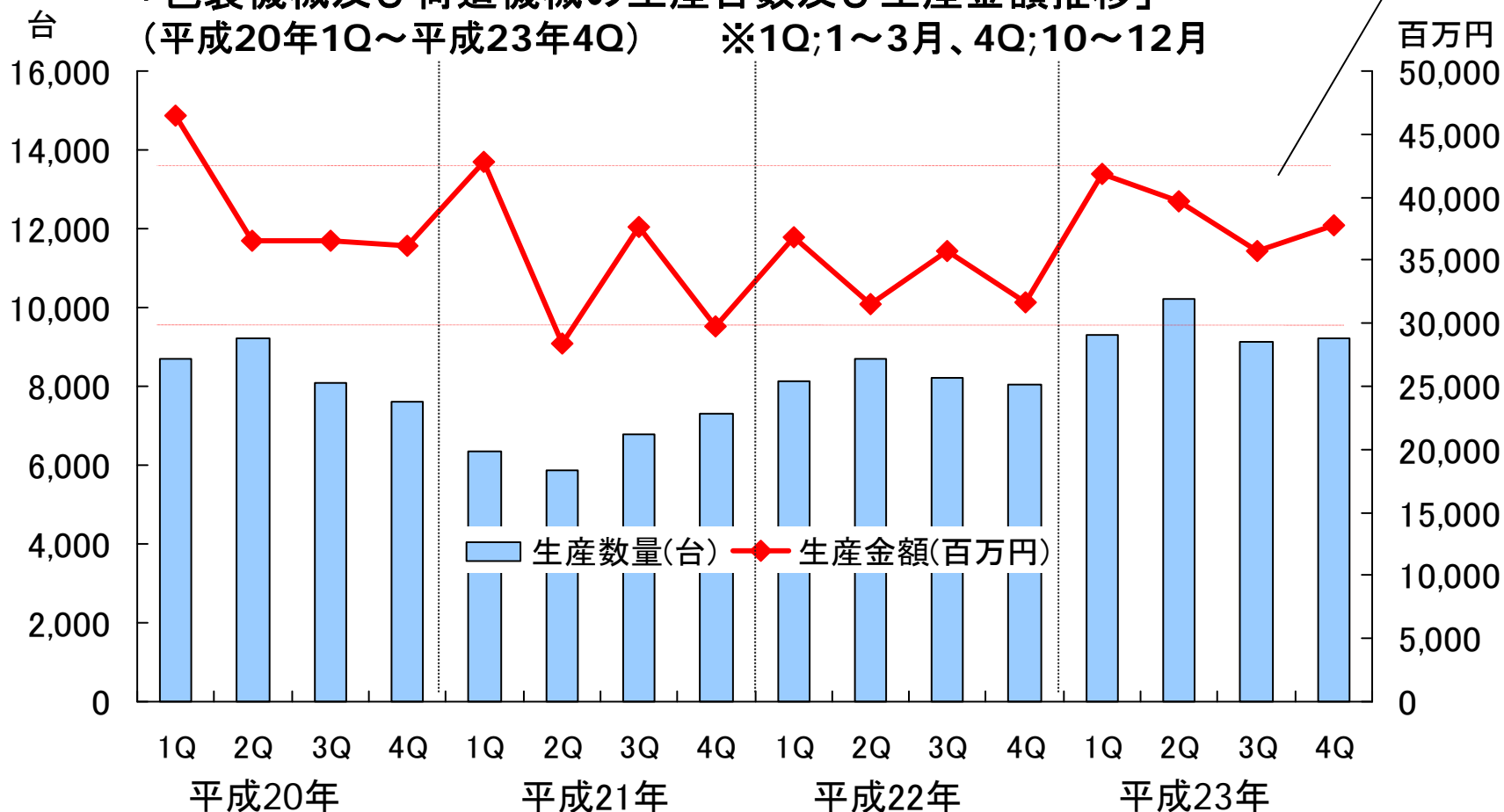
業界全体としては生産金額・生産台数ともに回復傾向が続いている

平成23年計  
生産金額  
前年比14.0%増  
生産台数  
前年比14.1%増

## 経産省 機械統計確報

### 「包装機械及び荷造機械の生産台数及び生産金額推移」

(平成20年1Q～平成23年4Q) ※1Q;1～3月、4Q;10～12月



# 事業環境と現状認識

## <包装機械業界>

- 主要ユーザーの食品業界の設備投資需要に改善の動きが見られる  
アジアの新興国需要は力強さが見られる
- 出荷額は、東日本震災直後は若干減少したものの、その後順調に回復  
円高の影響はあるものの、輸出は増加している
- 業界の景況は、平成23年度は回復傾向にあり
- 包装機械業界全体の平成23年度(H23.4~H24.3)の生産高は、前年度実績比  
5%増の4,000億円前後の見通し ※(社)日本包装機械工業会 生産高統計

## <当社の動向>

- 受注件数は増加したものの、高価格機種の実績が減少したことから、  
機械受注高は、前年同期を下回る
- 顧客企業の設備投資計画の見直しなどもあり、下期売上分(2月~7月)の  
国内需要が想定より大きく落ち込んでいる⇒下期売上計画を下方修正  
一方、新規開発案件及び翌期売上予定の高額案件の需要が活発化してきている
- 海外市場向けは、販売台数が増加し、売上高は前年同期を上回る  
アジア市場向けの需要は増加している

# *II. 2012年7月期 第2四半期決算概況*

# 2012年7月期第2四半期累計 決算概要

(単位:百万円、%)

	2011年7月期 第2四半期累計		2012年7月期 第2四半期累計		前年同期比		2012年7月期 第2四半期累計計画		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率	金額	計画比	率
売上高	1,759	100.0	1,995	100.0	+236	+13.4	2,000	△4	△0.2
売上総利益	442	25.2	510	25.6	+68	+15.4	545	△34	△6.4
営業利益	59	3.4	40	2.0	△18	△31.3	69	△28	△41.3
経常利益	63	3.6	43	2.2	△20	△32.0	70	△26	△38.1
四半期純利益	38	2.2	20	1.0	△17	△45.2	41	△20	△49.6

## 増収・減益

- 販売台数が増加したことから、売上高は前年同期比13.4%増収。
- 総利益は、売上高の増加により、前年同期比68百万円増加。  
計画に対しては、高額案件で想定より低い粗利実績が発生したことから、34百万円減少。
- 販管費は、大型展示会費用の発生と研究開発費の増加により、前年同期比86百万円増加。
- 営業利益は、計画を下回り、前年同期比18百万円減益。

# 品目別売上内訳

(単位: 百万円、%)

	2011年7月期 2Q累計	2012年7月期 2Q累計	前年同期比増減		2012年7月期 2Q累計計画
			金額	率	
給袋自動包装機	927	1,111	+183	+19.8	1,321
製袋自動包装機	233	253	+19	+8.3	134
包装関連機器等	126	142	+15	+12.4	159
保守消耗部品その他	471	488	+17	+3.7	386
合計	1,759	1,995	+236	+13.4	2,000

注) 給袋自動包装機は、ガス充填自動包装機を含む

## 前年同期比: +236百万円、+13.4%

各品目とも前年同期を上回る。特に主力の給袋自動包装機の増加が寄与。

- ・給袋自動包装機: +183百万円・・・中小型案件の需要回復により販売台数が増加
- ・製袋自動包装機: +19百万円・・・販売台数が増加
- ・包装関連機器等: +15百万円・・・高額関連機器の増加
- ・保守消耗部品その他: +17百万円・・・高額部品案件の受注件数が増加

機械売上

- ・機械売上高 計画比△107百万円・・・主力機種の販売台数が減少
- ・保守消耗部品 計画比+102百万円・・・高額案件と海外向けの増加

# 四半期売上高

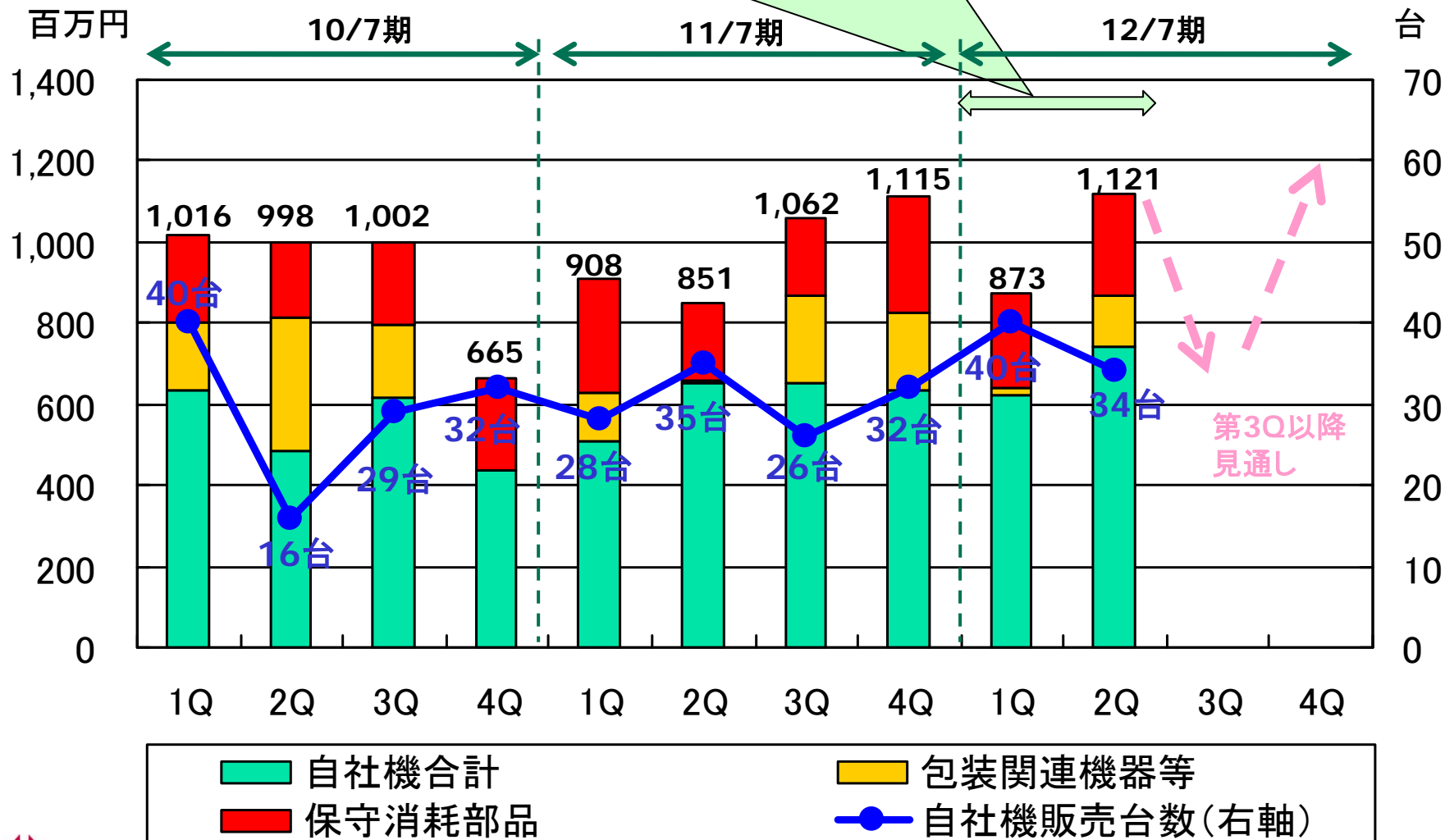
大型案件の有無、高額機種の販売台数により、  
四半期売上高は大きく変動

## 第2四半期累計実績

自社機販売台数 前年同期比+11台

自社機売上高 前年同期比+203百万円

※(給袋自動包装機<ガス充填自動包装機含む>、製袋自動包装機の合計)

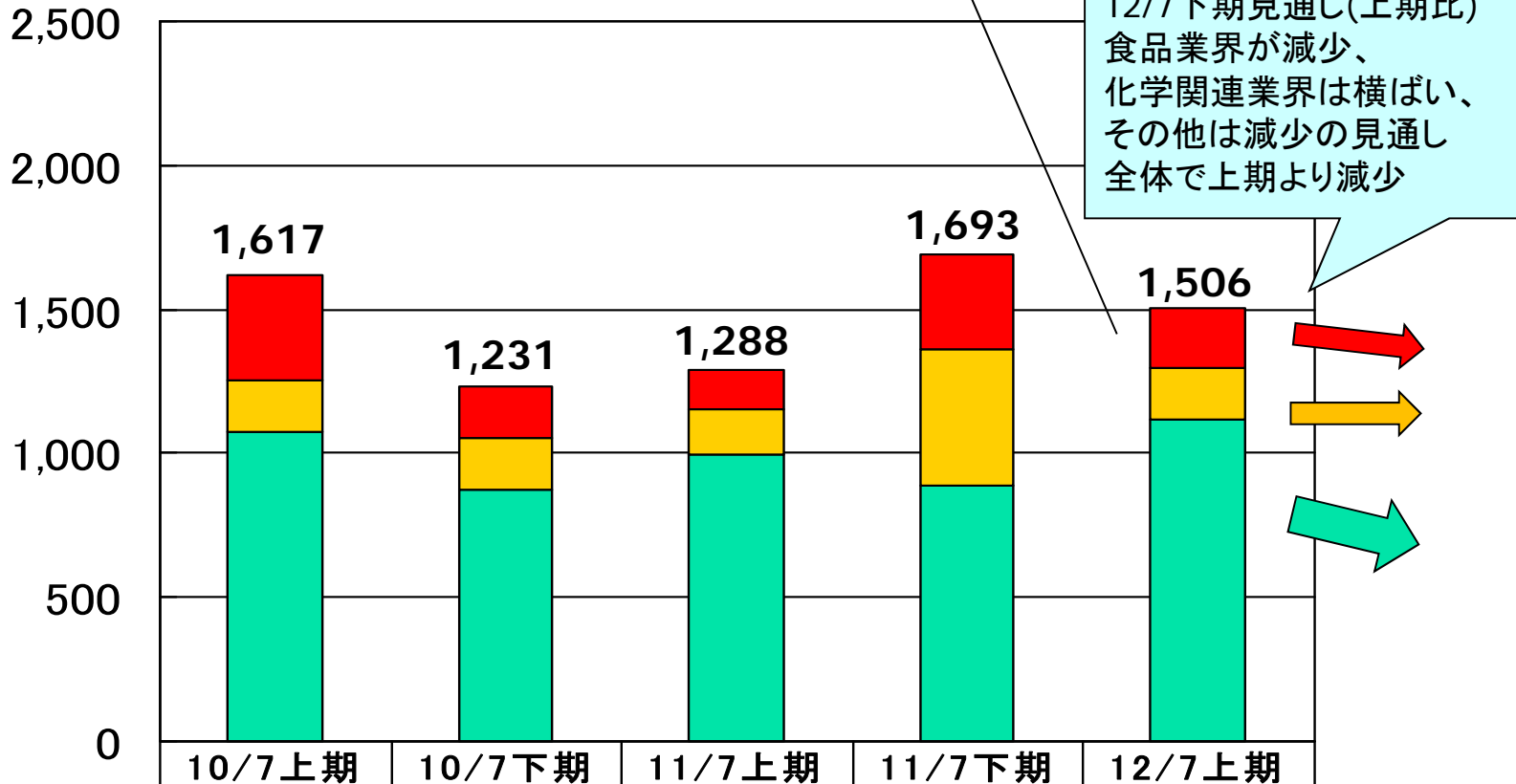




# エンドユーザー業種別売上高

各業界向けとも増加したことから、機械売上高は前年同期比17.0%増

百万円  
2,500



12/7下期見通し(上期比)  
食品業界が減少、  
化学関連業界は横ばい、  
その他は減少の見通し  
全体で上期より減少

	10/7上期	10/7下期	11/7上期	11/7下期	12/7上期
■ その他	365	176	135	331	212
■ 化学関連業界	180	178	153	474	175
■ 食品業界	1,071	876	999	887	1,118

(注) 売上高は、機械の売上高のみ

# 国内/海外市場別売上高

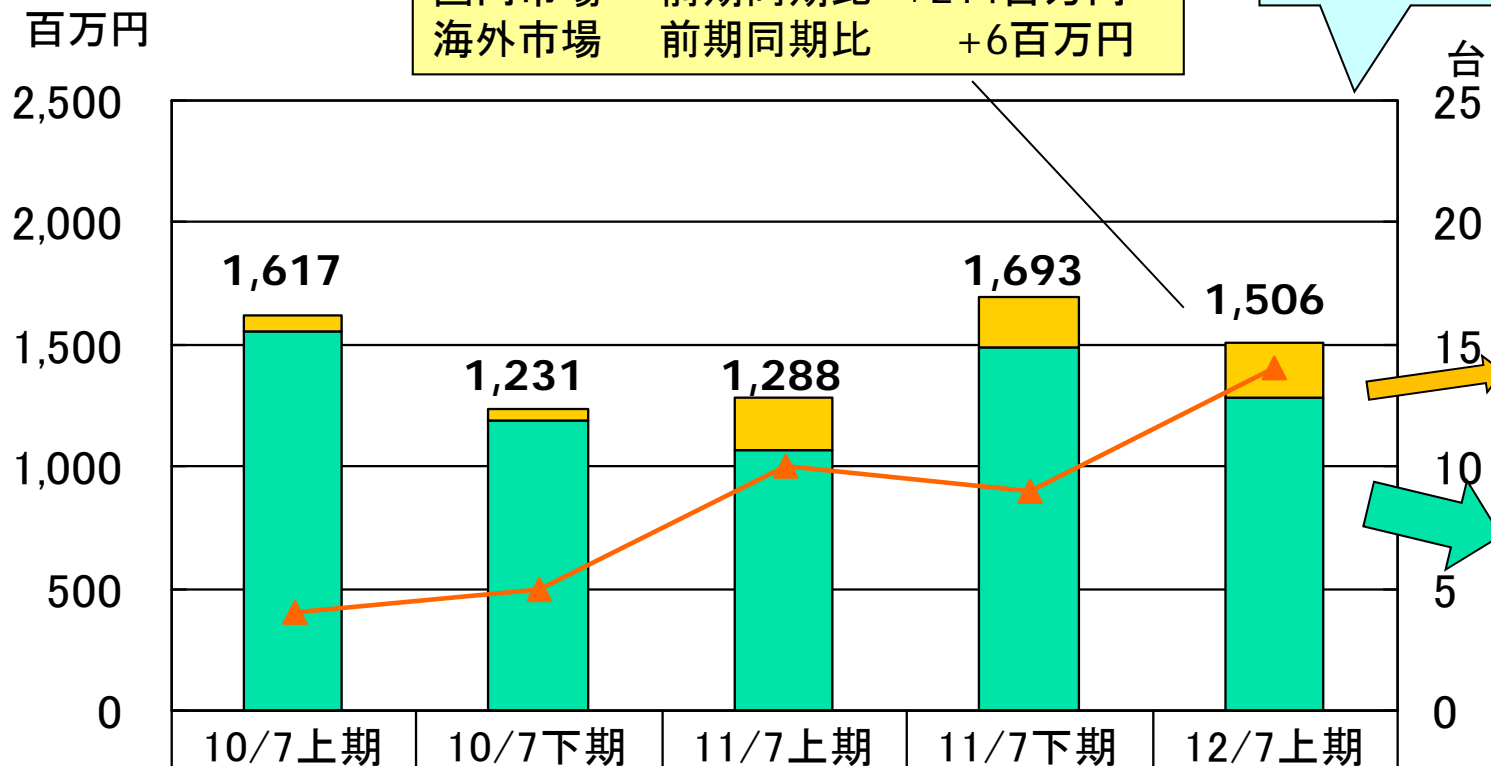
(エンユーザー市場)

12/7期上期実績

国内市場 前期同期比 +214百万円  
海外市場 前期同期比 +6百万円

12/7下期(上期比)

- ・国内市場 減少の見通し
- ・海外市場 増加の見通し

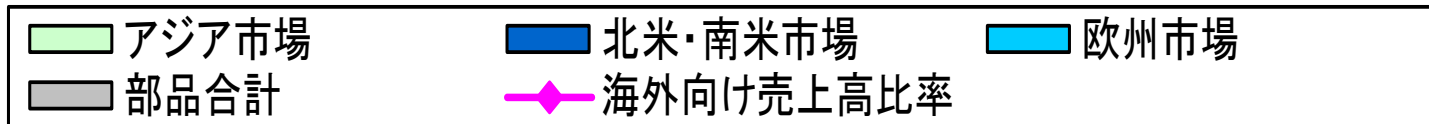
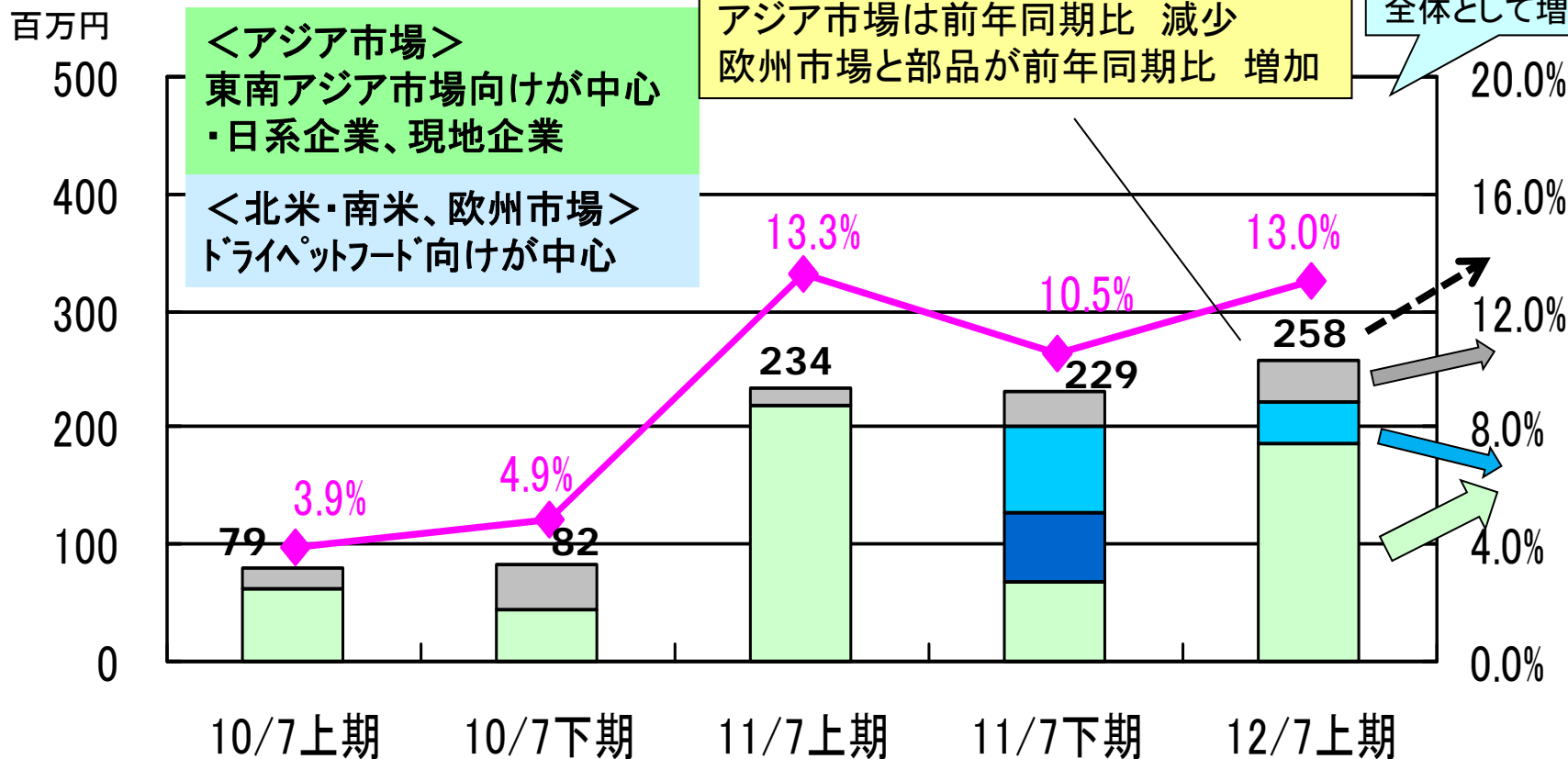


海外市場	63	44	217	201	223
国内市場	1,553	1,187	1,070	1,491	1,284
海外向け台数	4	5	10	9	14

(注)売上高は、機械の売上高のみ

# 海外市場向けの売上高

(エンドユーザー地域別)



※機械売上高;エンドユーザー地域別

# 海外市場向け 国別実績

海外納入実績(10/7期～12/7期上期)

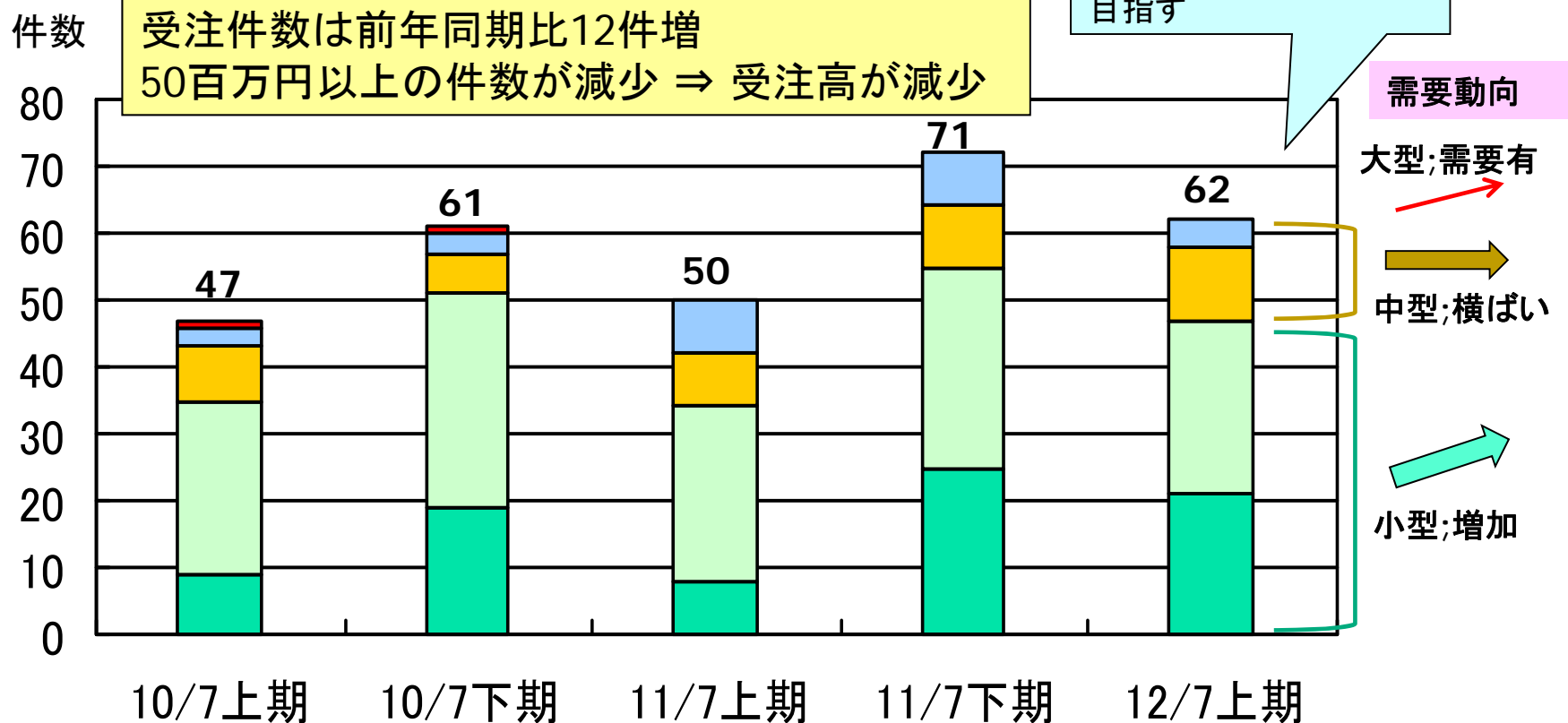


<12/7下期予定>

タイ、インドネシア、台湾、インド

# 機械の受注件数

<12/7下期計画>  
大型案件(1億円以上)と  
小型案件の受注増加を  
目指す



1件当たりの  
受注金額の層別



# 機械の受注動向

<12/7下期計画>

大型案件の確保と給袋自動包装機の台数増加で、受注高の大幅増加を目指す

百万円

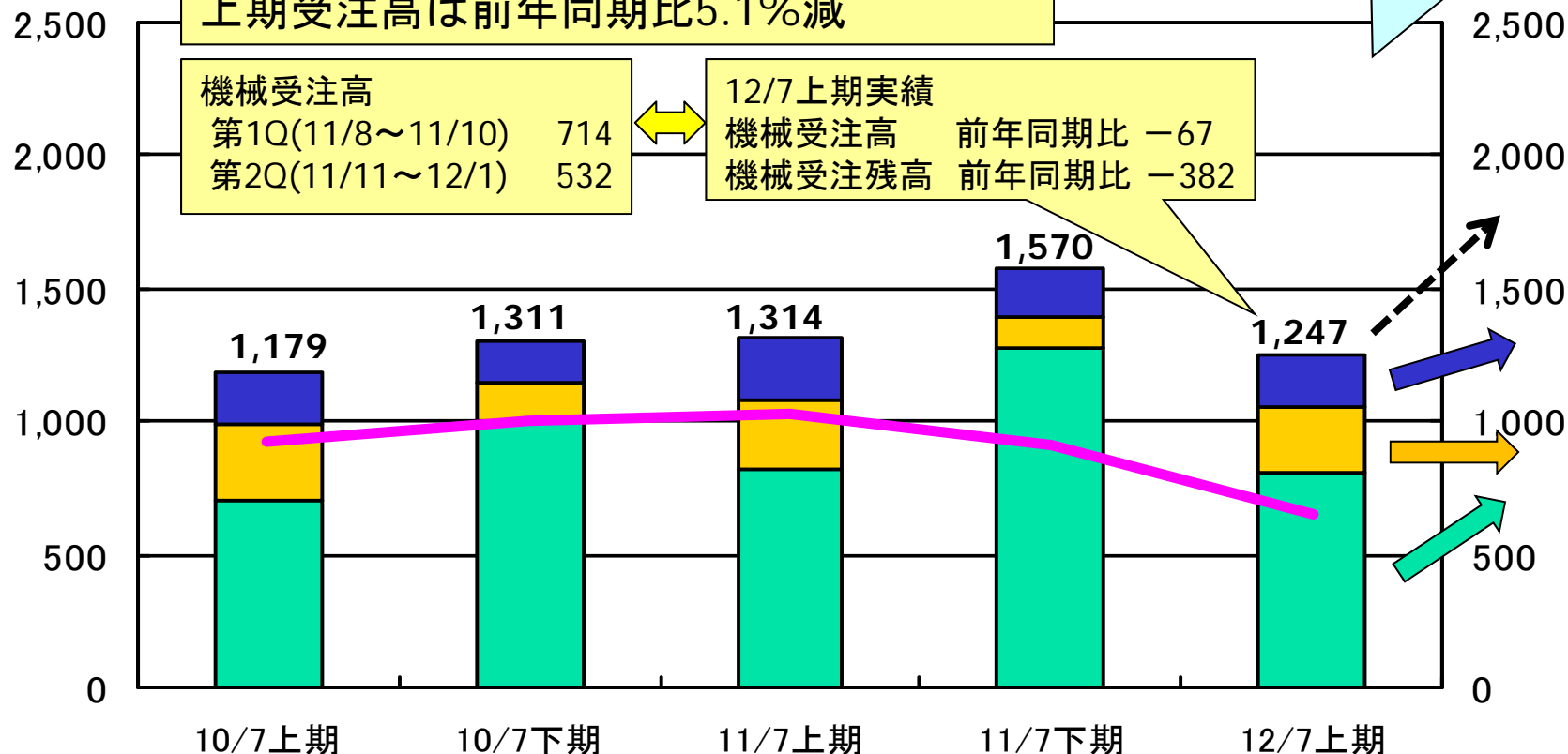
高価格機種の受注が減少したことから、  
上期受注高は前年同期比5.1%減

機械受注高

第1Q(11/8~11/10) 714  
第2Q(11/11~12/1) 532

12/7上期実績

機械受注高 前年同期比 -67  
機械受注残高 前年同期比 -382



給袋自動包装機  
包装関連機器等

製袋自動包装機

期末受注残高(右軸)

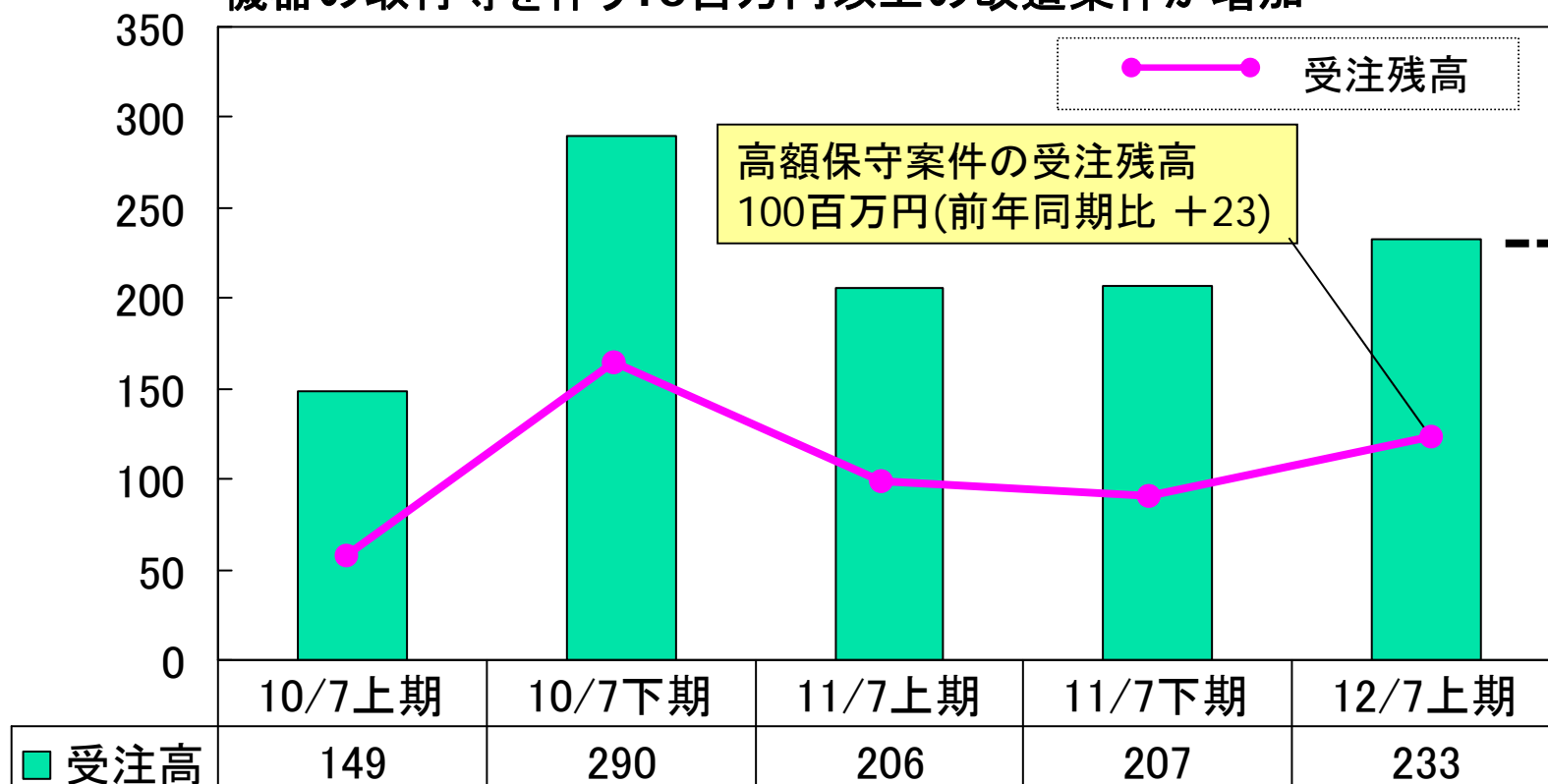
# 高額保守案件の受注高推移

高額保守案件: 百万円以上／件の保守・改造

12/7下期見通し  
上期比横ばいの  
見通し

百万円

機器の取付等を伴う10百万円以上の改造案件が増加



注) 印字機・検査装置等の仕入機器の費用も含む

仕入機器の販売のみの場合は、包装関連機器等に計上

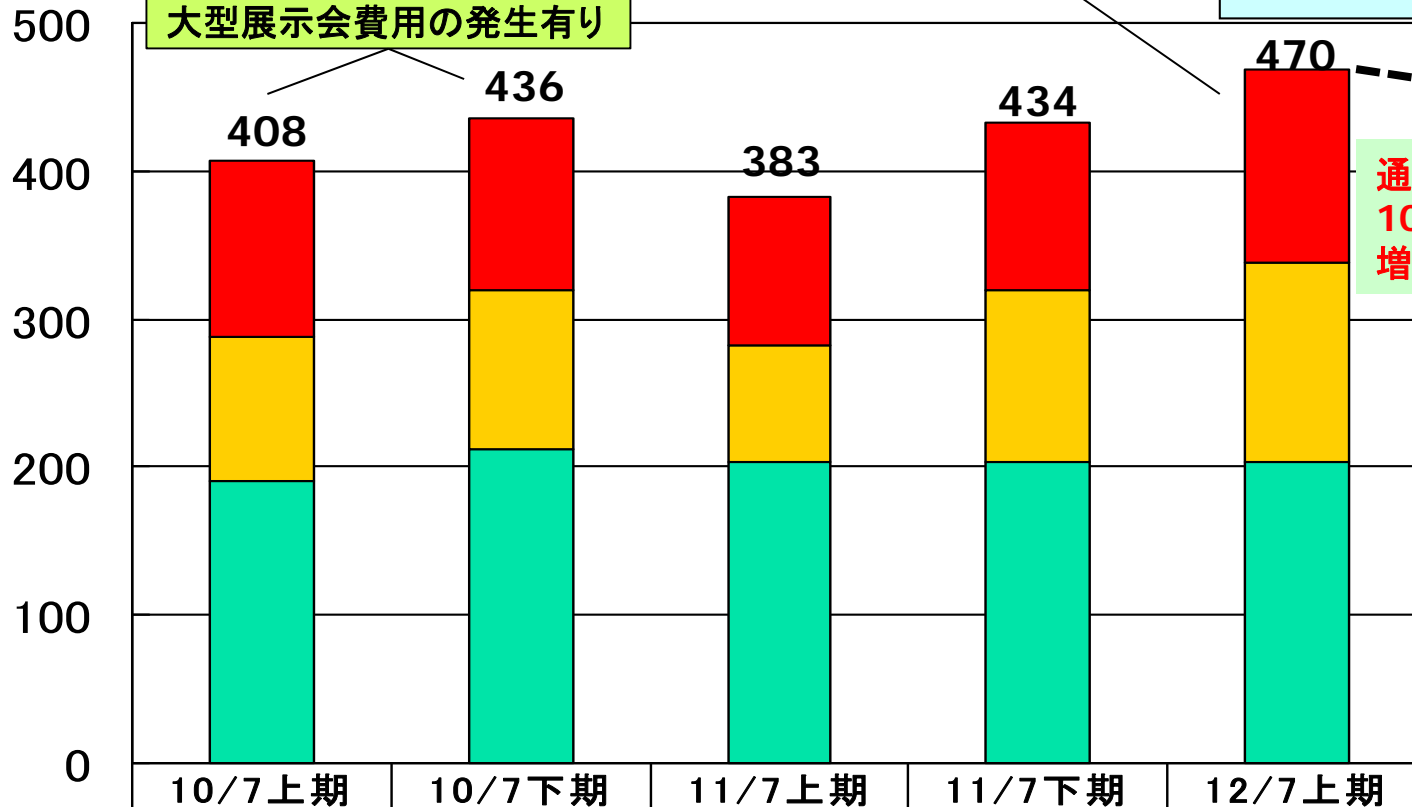
# 販売費及び一般管理費

展示会費用と開発費の増加により、前年同期比22.6%増

大型展示会費用の発生有り

12/7下期計画  
展示会費用等の増加で、  
前年下期より増加する見  
込み  
経費削減で上期より減少

百万円



通期で前期比  
100百万円以上  
増加の見込み

	10/7上期	10/7下期	11/7上期	11/7下期	12/7上期
■ その他	119	116	101	113	130
■ 戦略経費	98	108	79	116	134
■ 人件費	190	212	203	204	204

(注)戦略経費:広告宣伝費、減価償却費、販売促進費、開発関連費、  
求人費、業務委託費等の合計



# ***Ⅲ. 2012年7月期 通期業績見通し***

# 2012年7月期通期業績見通し

業績動向を踏まえ、  
下期計画を下方修正

単位:百万円	期初計画	修正計画	差異	
売上高				
上期(1Q-2Q)実績	2,000	1,995	△4	
下期(3Q-4Q)	2,200	1,804	△395	国内需要が想定より大きく減少
通期	4,200	3,800	△400	
売上総利益				
上期(1Q-2Q)実績	545	510	△34	総利益率の低下
下期(3Q-4Q)	606	472	△134	売上高計画変更に伴う修正
通期	1,152	983	△169	総利益率 期初計画比 △1.5%
販売費及び一般管理費				
上期(1Q-2Q)実績	476	470	△6	経費削減
下期(3Q-4Q)	507	457	△50	予算執行の抑制、経費削減
通期	984	927	△57	
営業利益				
上期(1Q-2Q)実績	69	40	△28	
下期(3Q-4Q)	99	15	△84	
通期	168	56	△112	前期実績 225

# 2012年7月期業績予想

(単位: 百万円、%)

	2011年7月期		2012年7月期 ※		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
売上高	3,937	100.0	3,800	100.0	△137	△3.5
売上総利益	1,042	26.5	983	25.9	△59	△5.8
営業利益	225	5.7	56	1.5	△169	△75.1
経常利益	232	5.9	60	1.6	△172	△74.2
当期純利益	138	3.5	30	0.8	△108	△78.4

注) 2012年3月6日業績予想修正時の計画

## 減収・減益

- 高額包装システムの実績が減少し、売上高は前期比3.5%減の38億円を見込む  
下期取組み: 海外向け売上高の増加と新規開発案件の納入
- 総利益率は、前期比0.6ポイント低下し25.9%  
下期取組み: 新規開発案件の収益確保
- 販管費は、戦略的な予算支出の増加などにより前期比13.4%増加(109百万円増)
- 営業利益率は前期比4.2ポイント低下し1.5%
- 当期純利益は、前期比108百万円減の30百万円

# 2012年7月期売上高予想

(単位:百万円、%)

	11/7上期		11/7下期		12/7上期		12/7下期 (予想)	
		売上比		売上比		売上比		売上比
給袋自動包装機	927	52.7	1,114	51.2	1,111	55.7	1,073	59.5
製袋自動包装機	233	13.3	174	8.0	253	12.7	62	3.4
包装関連機器等	126	7.2	404	18.6	142	7.1	258	14.3
保守消耗部品その他	471	26.8	484	22.2	488	24.5	411	22.8
合計	1,759	100.0	2,177	100.0	1,995	100.0	1,804	100.0

注)給袋自動包装機は、ガス充填自動包装機を含む

## 品目別売上高通期見通し

**前期比：△137百万円、△3.5%**

自社機械は増加するものの、システムの減少により、機械売上高は80百万円程度減少。

- 給袋自動包装機:2,185(前期比+142百万円)・・・高価格機種増加と新機種の販売効果
- 製袋自動包装機:315(前期比△93百万円)・・・販売台数の減少
- 包装関連機器等:400(前期比△130百万円)・・・包装システムの減少
- 保守消耗部品その他:900(前期比△55百万円)・・・高額件数の減少

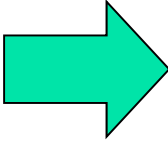
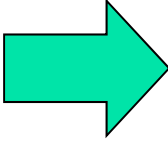
# *IV. 中期経営計画ならびに 経営戦略の主な取組み状況*

# 第3次中期経営計画(2012年7月期～2014年7月期)

## ◆中期経営ビジョン

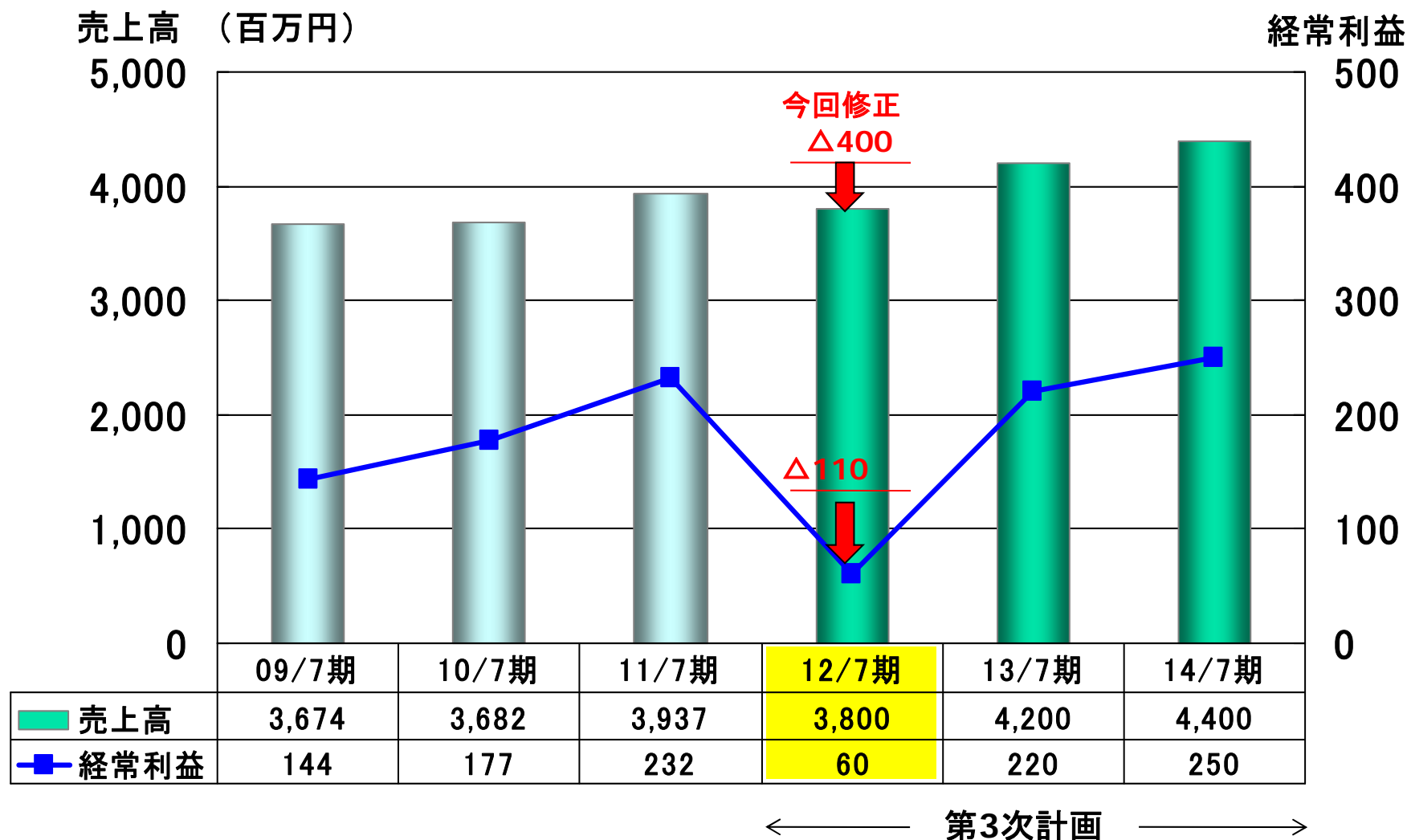
1. 世界に信頼される包装機メーカー
2. 「なんとかしたい」にトップスピードで応えるトータルプランナー
3. 『創造と挑戦』のモノづくり企業

## ◆中期数値目標

	11/7期実績		14/7期目標
売上高経常利益率	5.9%		5.5%以上
ROA(総資産経常利益率)	5.3%		5.5%以上
ROE(自己資本当期純利益率)	4.9%		5.0%以上
	11/7期実績		14/7期目標
売上高	3,937百万円		4,400百万円
営業利益	225百万円		245百万円
経常利益	232百万円		250百万円
当期純利益	138百万円		150百万円

# 業績計画

第2期以降の数値については、今後の事業環境と業績動向を踏まえて、修正要否を検討予定



# 基本戦略

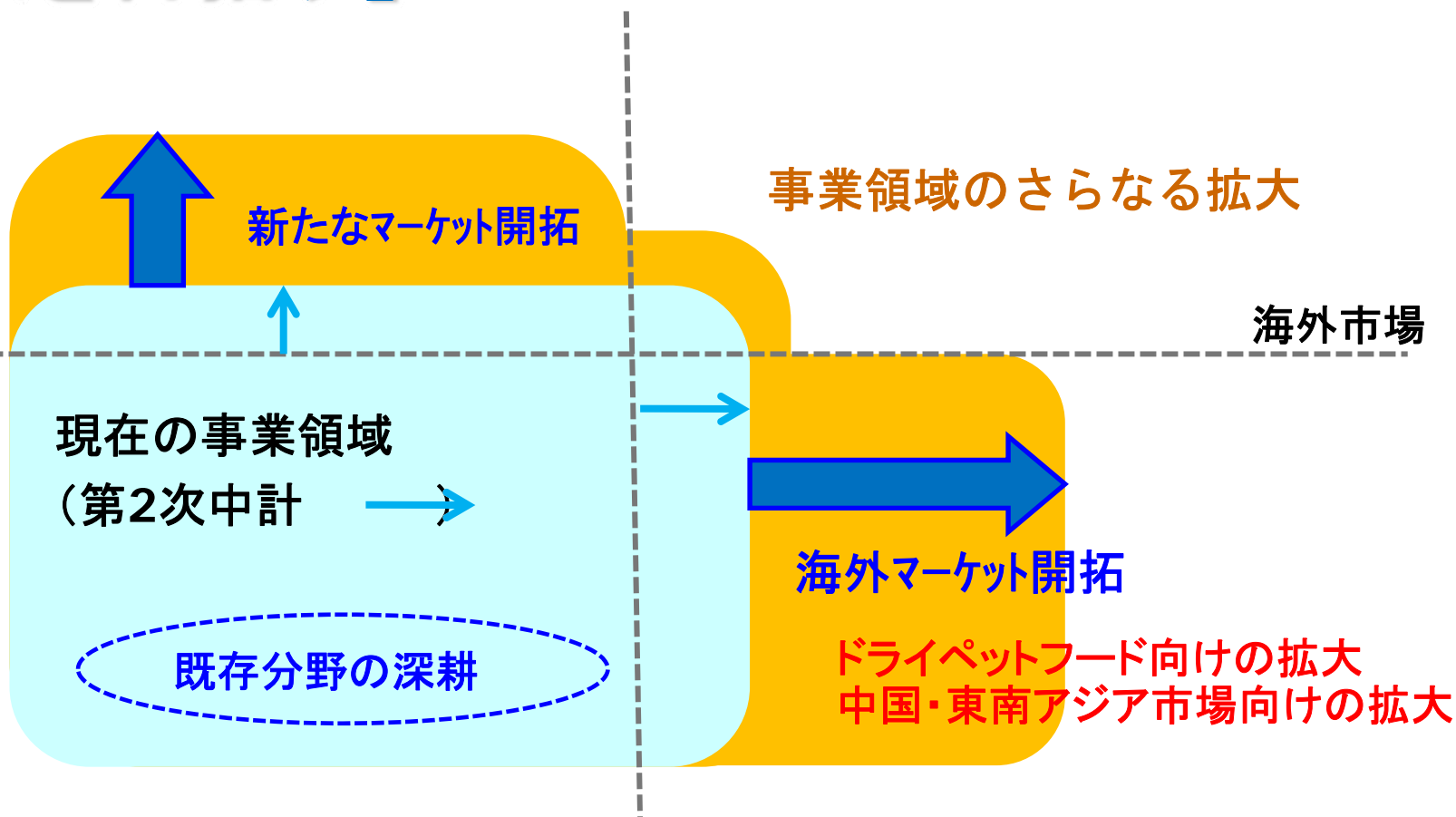
## 「持続的成長に向けて事業領域のさらなる拡大を目指す」

新規分野

事業領域のさらなる拡大

海外市場

国内市場



海外マーケット開拓

ドライペットフード向けの拡大  
中国・東南アジア市場向けの拡大

既存分野



# 事業計画モデル

売上高(単位:百万円)	11/7期実績	12/7期 期初予想	12/1期 実績	12/7期 修正予想	修正理由 今後の見通し
国内市場 (保守消耗部品含む)	3,474	3,500	1,736	3,200	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下期の需要が低迷</li> <li>・翌期は回復の見通し</li> </ul>
内、トータルシステム	534	700	221	600	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高額システムの需要が減少</li> <li>・翌期は増加の見通し</li> </ul>
海外市場 (海外部品含む)	463	700	258	600	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットフード向けで投資計画延期が発生</li> <li>・アジア向けの需要は増加の見通し</li> </ul>
	3,937	4,200	1,995	3,800	

## 基本戦略

- ①顧客ニーズの積極的吸収と独創的な商品開発を推進し、ドライ分野のロータリー式自動包装機国内シェアNo.1を維持する
- ②安定的に海外市場向けの売上高比率15%以上の体制を目指す
- ③包装システムのトータルプランナーとしての提案力強化を図る
- ④事業領域拡大のための商品開発を強化する
- ⑤顧客が安心して生産活動できる包装機とサービスを提供する
- ⑥事業・技術提携も視野に入れながら、事業領域の拡大を推進する

(資本提携; 当社発行済株式総数に対する割合15.01%)

株式会社ワイ・イー・データ(YED) ■ 設立 1973年 ■ 資本金 50億円 ■ 東証2部上場

■ 事業内容 オプトメカトロニクス・情報セキュリティ・情報マルチメディア事業

■ 売上高 連結55億円(2011/3月期)

**新たな分野・領域への進出を目指す**

業務提携

両社の技術・ノウハウ、事業インフラ・ネットワークの最大限の活用

- ・当社製品の海外販売におけるYEDグループのリソースの活用、相互協力
- ・当社のノウハウを活用した包装システム事業分野における装置・自動機等の開発・販売
- ・YEDグループによる当社の製品開発への支援
- ・当社の包装システム事業分野のノウハウのYEDグループへの提供
- ・包装システム事業分野における相互の営業協力、情報交換
- ・人事交流

当社 **持続的な成長に向けて事業領域のさらなる拡大を目指す**

第3次中計 重要課題「新規分野と海外市場の開拓」

具体的取組み ■ 販売促進投資の拡充 ■ 新機種の拡販 ■ 商品の強化

# 主な経営施策

## 販売戦略

### ①海外販売体制の強化

- ・海外営業部新設(11/10月)、販売チャネルの強化

### ②業界大手を中心に、顧客ニーズにマッチした商品の企画提案営業

### ③新規顧客開拓の為、営業開拓力の強化

### ④トータルプランナーとしての営業体制の強化

## 開発・技術戦略

### ①シーズによる包装機開発とコア技術開発

### ②新たなマーケット開拓のための新方式包装機の開発

### ③コストダウン設計の強化

### ④設計業務の基盤強化と効率化

### ⑤電子制御技術による新たな創造

# 販売戦略

## 積極的な広告宣伝・販売促進活動



新規顧客開拓 へ

■ 展示会出展を強化-----過去最高の出展頻度

・12/7期上期

①11/10月 日本国際包装機械展(JAPAN PACK)

新商品 GP-9S(11/7期開発) を展示  
(コンパクト・省エネタイプ)

※販売実績 6台  
(窓口へのOEM供給)



JAPAN PACK2011 展示会場

・12/7期下期計画

②12/4月 中部パック

※青字 当社での大型展示会の位置づけ

③12/6月 国際食品工業展(FOOMA JAPAN)

④12/6月 医薬品・化粧品製造技術国際展(インターフェックスジャパン)

⑤12/7月 プロパックチャイナ(上海)

■ ネットPRの強化

国内向け、海外向け B to Bサイトの活用推進等

# 販売戦略

## 新規顧客開拓の強化

### ■新規顧客・販路開拓の実績

※新たなマーケット:新方式包装機による開拓含む

受注実績ベース	10/7期	11/7期	12/7期上期
新規顧客開拓数	32社	32社	14社
既存分野 (業種)	24社 食品、健康食品、製薬等	24社 食品、健康食品、肥料等	10社 食品、健康食品、医療等
新たなマーケット (業種)	3社 製本、青果	2社 自動車部品、造幣	2社 酒造、海苔
海外マーケット (業種)	5社 食品	6社 食品、ペットフード	2社 食品
新規販路開拓数	2社	2社	1社

新規開発案件へ

### ■今後の主な取り組み

- 展示会出展とネットPRによる見込み客数の増加
- 新分野からの引き合いに対するスピード対応

# 販売戦略

## 海外マーケット開拓

### ■機械受注実績

	10/7期	11/7期	12/7期上期
機械受注高	189百万円	445百万円	161百万円
受注台数	9台	22台	9台
輸出国	タイ、台湾、マレーシア、 インドネシア 等	タイ、台湾、マレーシア、 カナダ、イギリス 等	タイ、台湾、マレーシア、 ポーランド

<下期>  
上期より大幅に増加  
する見通し  
<通期>  
11/7期比で増加を  
目指す

※水洗い対応包装機(09/7期開発;海外開拓用機種)の受注が好調  
10/7期 0台: 11/7期 3台: 12/7期上期 3台

上期トピックス  
11/11月～  
ホームページに  
中国語サイトを新設

### ■保守関連の高額受注(10百万円超)

- ・タイ洪水被害に伴う顧客企業の包装機復旧作業
- ・ペットフード用包装機の追加装置据付、改造 等 (カナダ、ブラジル)

### ■今後の主な取り組み

- アジア市場;新規開拓の強化と既存顧客の深耕
- ペットフード向け大型案件の受注活動



# 開発・技術戦略

## ■ 開発機種数・研究開発費

第3次中計 毎期 3機種以上へ

	10/7期	11/7期	12/7期上期
開発機種数	2	2	1
研究開発費(百万円)	124	137	78

下期;上期と同等以上

シーズとニーズの両面からの開発を推進中

## ■ 開発実績・計画(現在進行中の案件)

開発件数は過去最高ペース

12/7期上期実績	既存分野向け 1機種	製粉
12/7期下期計画 (完成・売上予定)	既存分野向け 1機種	鯉節
	新たなマーケット向け 2機種	酒造、海苔
13/7期上期計画	既存分野向け 3機種	食品全般、製菓
	海外マーケット向け 1機種	ペットフード

収益の確保と2号機以降の拡販



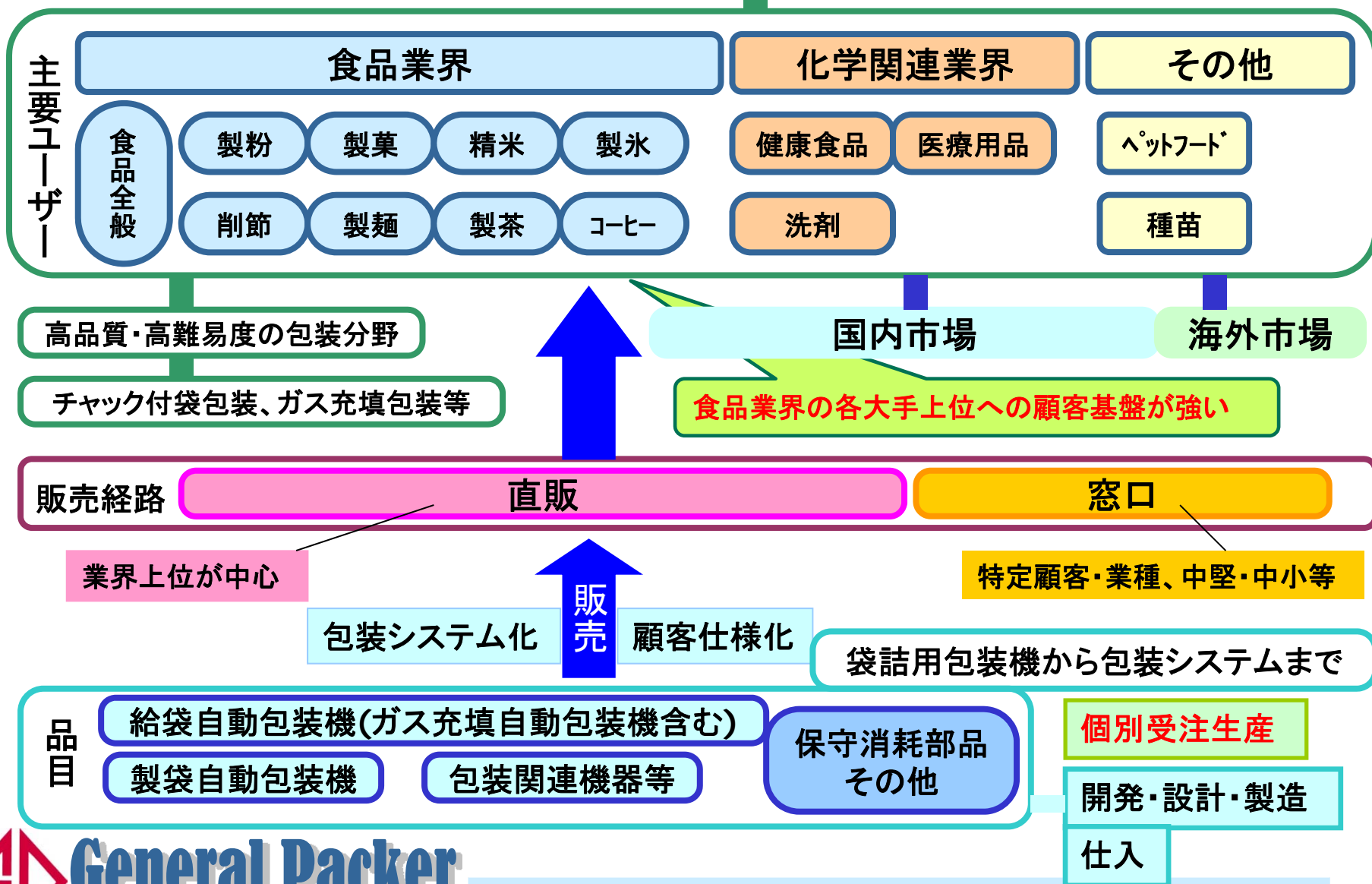
# V. 參考資料

# 会社概要(2012年1月31日現在)

- 設立 1966年(創業 1961年)
- 資本金 251百万円
- 発行済株式数 8,994千株
- 売買単位 1,000株
- 決算期 7月末
- 事業内容 各種自動包装機の製造・販売  
(食品・化学品・健康食品・医療用品等の包装用機械・システム)
- 従業員数 118名(その他臨時雇用者19名)
- 事業所 本社・工場、東京営業部

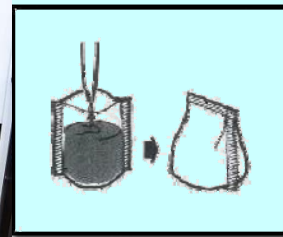
# 事業内容

主要市場:ドライ物(粉末・顆粒・固形物等)の包装用機械・システム



# 品目内容

対象物(粉末・顆粒・固形物等)  
を袋に充填して包装する機械



## 袋詰用包装機

### 給袋自動包装機

袋



給袋装置

充填・包装装置

### ガス充填自動包装機

袋



給袋装置

充填・包装・ガス充填装置

### 製袋自動包装機

フィルム



製袋装置

充填・包装装置

菓子類、小麦粉、食品類、調味料、ペットフード、健康食品、医療用品、肥料、粉末薬品、電子部品等の袋詰用包装機。多品種少量生産向け。

花かつお、ナッツ類等の袋詰用包装機。

充填物は給袋自動包装機と同様。小袋の高速包装から大袋包装まで。フィルムから袋を作りながら包装する機械。

## 包装関連機器等

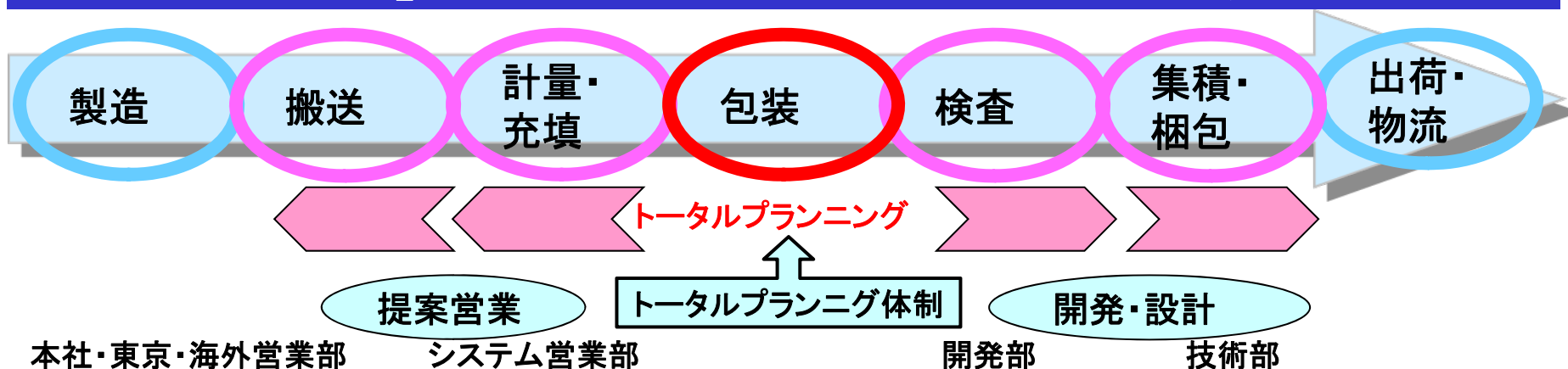
付帯機器(充填機、計量機、計数機、印字機等)、段ボールケーサー、各種包装システム等

## 保守消耗部品その他

当社販売機械の保守、修理・交換用部品、印字機、検査装置等の取付・改造等

## (経営ビジョン)

「なんとかしたい」にトップスピードで応えるトータルプランナー



## 『創造と挑戦』のものづくり企業

### 人員推移

	07/7期末	08/7期末	09/7期末	10/7期末	11/7期末	12/1期末
従業員	101	106	109	114	119	118
(内 開発・技術部人員)	(24)	(26)	(27)	(28)	(32)	(31)
臨時雇用者※	22	21	25	24	21	20
合計	123	127	134	138	140	138

※パート、嘱託、派遣

従業員平均年齢	34.9歳	35.2歳
---------	-------	-------

# 企業ビジョン

- 「社会・株主・顧客・取引先・従業員の全てに対し、誠実で透明性の高い経営を実践し、信頼され、支援される企業」の実現



# 株主還元

## 中期配当政策

- 株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向50%または純資産配当率(DOE)2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指す。

	2009/7期	2010/7期	2011/7期	2012/7期予想
中間配当	3.50円	3.50円	3.50円	3.50円
期末配当	3.50円	3.50円	4.50円 (記念配当1円)	3.50円
年間配当	7円	7円	8円	7円
当期純利益／株	9.19円	11.84円	15.83円	3.40円
配当性向	76.2%	59.0%	50.5%	205.9%
DOE	2.2%	2.2%	2.4%	2.1%

減益であるが配当は7円を維持

# 包装システムの市場創造型トータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

## 当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。

【IR窓口】 経営企画室 長谷川

〒481-8601

愛知県北名古屋市宇福寺神明65

電話:0568-23-3111

FAX:0568-22-3222

E-mail:info@general-packer.co.jp

